



つよし寮 特集

施設長あいさつ

つよし寮施設長 谷口正純



簡単に紹介をさせていただきます。

私は、昭和62年4月につよし会に就職し、つよし寮での勤務をスタートさせました。

つよし寮は昭和54年4月に開所したので、8年目から働き始めたこととなります。

当時は振り返りますと、晴れの日には、利用者、職員全員が外に出て活動をしていました。

内容はと言うと、畑の管理(耕起、堆肥入れ、播種、収穫など一連の仕事)、草刈り・草運び、開墾、茶木の管理・生育、茶摘み、茶煎りなどを行っていました。

逆に、雨の日には、男性は窯業(作品づくり、粘土あそび)を行い、女性はパッチワーク製による座布団や袋物の制作・創造活動を行っていました。

働き始めて13年が経過した時、つよし共働センター(通所)へ異動となり、その後つよし学園へ異動し、3年前につよし寮へ異動してきました。実に17年ぶりのつよし寮勤務となり、一緒に活動をして強く思ったのが「変わっていない!」と言う事でした。

「何が変わっていないのか?」

つよし寮では、開所当初から利用者の方に分かり易いように活動形態を単純化し、日常生活でさえも自分で動けるように工夫をしてきた。

利用者、職員が同じスタイルで活動を行い、その中で、利用者の特性、方法、道具、人などを考えグループ化し、環境(人、場所、道具、目的性等)を整え、1人1人が力を発揮できる場面を沢山考え、実行してきた。その結果がつよし寮オリジナルの沢山の作業種目であろう。

例を挙げると、農耕、窯業、縫製活動を主とし、農耕では運び(一輪車、モッコ)、掘る、スコップですくうなど、窯業では製品作り(皿、小鉢、干支など)、粘土あそび、縫製では、針で縫う、ミシンで縫う、座布団を棒で叩く(馴染ませる)、縫う練習など...その他に、お茶づくり(釜煎り、煎茶)茶摘み、山菜取り(筍、ワラビ、タラの芽、ヨモギ)、漬けものづくり(大根、筍、つわなどの山菜、高菜)、ジュースづくり(山桃、梅)、梅干し漬け、収穫、環境整備(草刈り、草運び、ガードレール磨きなど)、炭焼き、等を活動化し、日々の生活に変化を持たせながら、利用者の方が出来る事は何か? 誰と出来るのか? 道具はどれを使えるのか? 1人でも出来るのか?

理解力は? 等々を職員全員で合議し、実践に移していった。当然、実践の後は振り返りを行い、更に合議を重ねていった。

当時(20年ほど前)から比べると、当然のことながら利用者の方々は20歳の年齢を重ねられ、我々職員も年をとり、入れ替わりもあり、当時の事を知る者は数人だけである。

利用者も年齢を重ねられ、職員の入替わりもありながらも、活動自体、多少の縮小はあるにせよ、殆ど残っており、利用者の方も自分なりに動ける範囲内で元気に活動参加されている姿を日々見る事が出来るのである。

何故、日々の活動を沢山準備し利用者の方々に参加してもらうのか?

つよし寮では、色々な障がい特性を持った方々が一緒に生活をされています。

その中で、沢山の作業種、道具、モノを考え、実際に一緒に動いてもらう事によって、利用者全員の役割が自然と出来ていく。

その役割を農耕で例えるなら、運び(一輪車使い)の上手な人、逆に苦手な人、モッコ等を使いペアでなら運べる人、スコップ使いが上手な人、ペアでの運びでも利用者同士で運べる人、職員と一緒にないと運べない人、何かを握る力の強い人、全体の動きを理解できる人、運ぶ場所の理解できる人など、農耕という作業の中で違う役割を持ったグループが出来上がっていき、導入の部分で流れをつくる事により、その後はグループ毎で動くことが出来るようになって来る。そうなる、違う作業場面でも応用が利くようになり、自然と活動の幅が広がっていくというわけである(自立)。

つまり、つよし寮という社会の中での活動を通して、人とモノを通した関係が形成されていくのである。その関係の形成と自立をこそ我々の仕事の柱と捉え、日々地道に行っているのです。

その活動を繰り返し繰り返し行う事によって、時にはぶつかり合う事もあり、逆に分かり合い、泣き、笑い、励ましたり、認め合ったりすることで、関係の線(幅)が太くなり、広がっていく。それを成長(発達)と呼ぶなら、その成長(発達)を他の利用者と比較するのではなく、昨年、半年前、昨日の本人と比較し次の成長へと繋いで行く事がより重要だと考えます。

こうした成長(発達)の関わりを、手を替え品を替え、40年間地道に変わらずにつよし寮は続けているのです。

つよし寮も重度・高齢化が進んでおり、平均年齢も60歳になろうとしています。

昨年度から、介護棟の建設、居住棟の改装・個室化、外壁塗装、等を3ヶ年かけて行っております。

これからも、安心・安全な生活の保障を進めながら、併せて、これまで行ってきた関係の形成、自立(律)、人間の発達理解という大きなテーマを全職員が共有し合いながら、前へ進んでいきたいと考えております。

是非、遊びに来てください!

今後とも、宜しくお願い致します



つよし寮保護者会会長

保護者会会長 **国元正紘**

私は、つよし寮に入所している「国元英光(70)」の兄です。つよし寮開所以来40年間優しい支援の下、31名の仲間と家族縁で結ばれ暮らせていることは、幸せだと思います。

本人は話せなく、「あ」「う」の母音の発声だけから、高齢になり「うどん」「おいしい」「えいが」の単語を発音できたり、踊りのソーラン節を自己流で、カ一杯皆で踊ったり、個室に入居し、1人である時間は帰省時だけでしたが、毎日持てるようになり私達を部屋に案内してくれた時の弾んだ様子は、その嬉しさが姿にあらわれていました。

4人部屋から1人部屋への改修は、3月中には完了し、全員個室に入居できる運びと聞いています。

あかしあ花まつりも楽しみです。つよし棟の桜、寮内の桜は、眼下の山々、遥か向こうの海岸を背にして今年もきれいなことでしょう。

この地をつよし会の寄贈して下さった「つよしさん」有難うございます。寮生と共に百歳までは生きましよう(安倍首相の人生100時代構想に甘え)。

つよし会並びに利用者の家族の皆さんに感謝しお礼申し上げます。亡き両親も安心し、にんまりと笑っていることでしょう。感謝!感謝!



障害者支援施設 つよし寮

障害者支援施設、施設入所支援、生活介護、短期入所

目的

生活に押し流されることなく、恵まれた自然と環境を積極的に生かし、ともに生きる力を身につけるよう日々の生活と支援をします。



今年も、いい年でありますように

